

# 犬の名はジョナス

text by Shinji Ishii  
文いしいしんじ

ジョナス・メカスというひとがいる。1922年12月23日、リトアニア生まれ。映画作家。ニューヨークのブルックリン在住。

第二次世界大戦中、22歳でリトアニアを脱出し、ウィーンへの途上でナチにとらえられ、難民キャンプに収容される。1949年ほぼ一文無しでニューヨークにたどりつき、二週間後には16ミリカメラを手に入れ、映像作品を撮り始める。

サルバドール・ダリ、ジョン・レノン、アンディ・ウォーホル、アレン・ギンズバーグらと親交をもち、1965年のヴェネツィア映画祭ドキュメンタリー部門で「営倉」が最優秀賞を受賞。ひと呼んで「アメリカ実験映画のゴッドファーザー」。現在94歳。

最近友人になった岡本零さんから、お誘いが

小説の同時翻訳をお願いすることにした。つまり、手前のTPには、日本語と英語のテキストが平行してつづられていき、その後ろを、リトアニア生まれの亡命者がひとり新大陸で撮りつづけた映像の、光と影が、交差しながら進んでいく。まさしく、地球規模でみる夢だ。

その夜は、まさしく、夢そのものの時間が流れていった。

僕は、少年のころ、犬を飼っていた男のはなしを書きだした。犬の名はジョナス。誰にもかみつかず、吠えつきもしない。男は大学に進み、老年の教授と若い女性のふたりから「波」についての秘密を教えられる。この世はすべて波。光も音も、記憶も、時間も。からだも生命も、ひとのこころも。

男と女性とともに暮らし、豊かな波打ちのなかで、新しい「小波」を得る。「小波」はゆりかごからふたりに笑いかける。男は庭に木を一本植える。風は波。葉ずれは波。木漏れ日も波。

長い時間が経つ。女性の波はじよじよに静まりやがて一本の線となる。「小波」からさらに小さいな「小波」が生まれ、木は高々と枝をさし

あった。「ジョナス・メカスの新作の完成に合わせ、京都でなにか、いっしょにイベントをやらない？」

零さんはジョナスの若い友人だ。もう何年も前、敬慕のあまり突然ブルックリンを訪れた零さんを、ジョナスは両手を広げ、笑顔で自宅に迎え入れた。零さんの話をきいていると、ジョナスには、そういう友人が世界じゅうにいることがわかる。生きていること自体が名作。みずからの生命を長々と燃やし、無数のひとの生をほんの少しの間幸福にする、そんな天才。

いっしょに、といっても僕にはことばを書くことしかできない。近所の書店「誠光社」を会場に、ジョナスの新作をスクリーンに投影し、と同時に、僕が即興で小説を書き、それもスクリーンに映写する。僕はコンピュータにタイピングで書き、そのデイスプレイ画面を、プロジェ

あげる。波打つ時間のなかで男のからだはだんだんと見えなくなっていく。見えないからといって存在しないわけではない。あらゆる波が透明な男をはこぶ。男自身も波となって時間、光、記憶を運ぶ。男はいまリトアニアの土地に流れる風となつてなつかしい木々を揺らせている。

書きながらニューヨークのボニーの字が震えているのが見えた。デイスプレイに打ち出される活字なのに波打ち揺れている。いまボニーは泣いているんだな、とおもった。

あとで知らされたことだけれど、ジョナスの映像のなかにも、まるで符号のように数多くの

クターでスクリーンに映せばよい、というのだが、揺れ動く映像と文字とが重なると、結局どちらも見づらくなってしまふのでは、という懸念が残った。

零さんはその問題を、若いジョナスが思いつきそうな、実験的、かつ、美的なアイデアで解決した。

会場の天井から、二枚の大きなトレーシングペーパー（TP）を吊り下げる。客席から見ても前のTPには、僕の書きつづる文字が映写される。そして後ろ側の映写機には、背面からジョナスの映像が写しだされる。二枚の半透明の膜がゆらゆらと揺れ、文字の背面に、遠い記憶のように映像が浮かぶ。

さらに、通信回線でニューヨークと京都をつなぎ、現地に住む僕の友人ボニー・エリオットに、

「波」があらわれた。僕はもちろんこの日まで作品を見たことがなかったし、書いているあいだも映像を眺めている余裕などなかった。岡本零さんもお客さんも、映画と小説と翻訳が終わったあとは、長い眠りから目ざめた赤ん坊のような顔をしていた。

「ジョナスがじっさい、犬になった写真があるんですよ」といって、零さんが一枚の画像をみせてくれた。四つん這いになって大口をあける人間の犬。僕もボニーも零さんもお客さんも、この犬の波に打たれ、濡れそぼち、夢の時間を生きた。犬の名はジョナス。誰にもかみつかず、吠えつきもしない。



## リトアニア共和国



面積: 約6.5万km<sup>2</sup>  
人口: 284.9万人 (2017年1月:リトアニア統計局)  
都: ビリニュス(人口約53万人) (2017年:リトアニア統計局)  
言語: リトアニア語  
宗教: 主にカトリック

## Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説「ぶらんこ乗り」「麦ふみクーツェ」「ポーの話」「みずうみ」「四とそれ以上の国」など、エッセイ「人生を救え!」(町田康共著)「熊にみえて熊じゃない」「遠い足の話」、絵本に「赤ずきん」(ほしよりこ絵)など多数。

